かわすじ 今日談

筑豊総局長

西村 隆幸

県立嘉穂高(飯塚市潤野)の1年生を対象にした「創志セミナー」に呼ばれた。

私のようなマスコミ関係者や経営者、医師、弁護士、建築家、銀行員ら前線で働く社会人が講師を務め、将来の進路選択に役立てようという試みだ。

約1時間のパネル討論の後、生徒たちは興味のある講師の分散会で詳しく話を聴く設定だ。

3年前に始まった。私は毎回招かれている。嘉穂高OBでもないし、現役の高校生とは年齢差も大きい。ちょっと気後れしているのだが、高校生とのやりとりが楽しい面もあって参加している。

先月末にあったセミナーでは「トライ・アンド・エラー」の話を強調した。米国のシリコンバレーでは、

失敗した数の多さが人事採用の決め手になる。それだけ多くのことにチャレンジした証しになるからだ。失敗を恐れずに挑戦する気概を持っていると。失敗を重ねた経験は必ず次につながると判断されているのだ。

挑戦と失敗、若者の特権！

グーグルや大手医療機器メーカーなどを回った。同行した藤浦誠一議長によると、幹部が異口同音に話していたのが、いみじくも「トライ・アンド・エラー」の徹底だった。失敗の数や質を重視していたという。

「失敗をしていない人」は、イコール「チャレンジしていない人」と見なされる。そういう人々には、ベンチャーキャピタルなどの投資家は出資しないそうだ。グローバル化、ICT(情報通信技術)の進化、AI(人工知能)の登場などで世の中の変化は激しい。「失敗」とは、激化は激しい。「失敗」とは、激

去年と一昨年は、桂川町で「心の健康教室」を主宰する相良五郎さんの「心の健康法」も伝えられた。今年は話題を少し変えて、「居心地の良い空間をつくらう」と呼び掛けた。前回の小欄で紹介した、福岡市の旧大名小の力フェの話だ。「自分が居心地の良い環境をつくるためにも、周りのことを考えたい。対話力を高めるために、常に人のことを考えて行動したい」。こんな感想を残してくれた女子もいた。教室で1年生のエネルギーを受け止めながら、私自身が彼らから何かを学んでいたのかも知れない。チャレンジは確かに若者の特権に違いない。とはいえ、おじさんにだってチャンスはあるし、気力はある。頭や体が回らなくとも、経験に裏打ちされた円熟味という技がある。